

## ～みんなで考える食器の未来～ 令和4年度 ものづくり研究会

**【1回目】 令和4年10月8日 参加者 13名 講師:長谷川善一、(株)深山:松崎社長**

内容 お気に入りの器の入手や廃棄についてグループディスカッションを行った。(株)深山の松崎社長より、GL21の取り組みについて紹介していただき食器がリサイクルできる事やリサイクル粘土で作られたRe食器の製造工程について学び、モニター調査用としてRe食器を配布した。



**【2回目】 令和4年11月5日 参加者 3名**

内容 モニター調査用に配布したRe食器(カップと取り皿)について、使用感や誰が主に使ったかなど感想を発表。長野県波田地区の取り組みについてのDVDを鑑賞し、瑞浪市での回収を目指しどのような方法であれば、市民が利用しやすいか意見交換を行った。



**【3回目】 令和4年11月19日 参加者 19名 講師:江尻京子、立石賢司、長谷川善一**

内容 岐阜県セラミックス研究所の立石研究員より、陶磁器の製造工程で排出されるCO2の削減方法や粘土の枯渇問題に対する産地の取り組みについての講演があった。東京多摩地区エコにこセンターの江尻センター長より、埋め立てごみゼロ達成や不用食器回収の取り組み、また市民が楽しくリサイクルに参加できる取り組み等について講演いただいた。



**【4回目】 令和4年12月10日 参加者 9名 講師:長谷川善一**

内容 県内での食器の回収は、2004年の垂井町が初めてで、多治見市が2010年にホワイトタウンで試験的に実施し、2012年にリサイクルステーションを拠点に行政回収を始めた。(5t/1ヶ月)講師の長谷川氏から、日本のリサイクルの歴史は江戸時代(わらじ、ふんどし)から始まっていて、モノを大切に再使用する事が環境負荷低減にも繋がっている。地場産業としてのSDG's「つくる責任、つかう責任」という事について、今一度考えてみてほしい。そして、瑞浪市で少しでも早く「家庭用食器の回収・リサイクル」が実現することを願いますとお話があった。



